

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2015.12) 平成26年度:40.

眼科手術後、腹臥位保持が必要となった患者の睡眠の実態

鈴木 唯、荻野 まどか

## 眼科手術後、腹臥位保持が必要となった患者の睡眠の実態

旭川医科大学病院 8階東ナースステーション ○鈴木 唯、荻野まどか

### 【目的】

術後にプロン体位保持が必要となった患者の睡眠の質を明らかにする。

### 【研究方法】

術後にプロン体位が必要になった患者12名を対象とし、プロン体位開始日から解除後翌日までの期間、OSA睡眠調査票（MA版）を用い、本調査の分析方法に沿い因子ごとに得点化した。この調査票は、母集団の標準得点の平均を、5因子とも50点としているものである。また、アンケート、診療情報より、睡眠に対する感想を抽出した。本研究は研究者の所属する施設の倫理委員会の承認後開始した。

### 【結果】

プロン体位保持期間は2～10日であった。プロン体位中の睡眠時間は7日目までは約6時間を維持できていたが、7日目以降、症例数は少ないが4～5時間に減

少し、体位解除後翌日には回復していた。OSA睡眠調査票の5因子の得点の平均値は、約40～50点で大きな変動はなく推移し、体位解除日翌日にはほぼ50点以上であった。5因子の中では、因子Ⅱ（入眠と睡眠維持）が最も低値であった。アンケートでは息苦しさや圧迫感などの苦痛が認められた。さらに、見えるようになった安心感から眠ることができたという意見があった。

### 【考察】

プロン体位を保持することにより睡眠の質は低下するが大きな変動はなかった。睡眠の質が低下する要因は、入眠困難感や中途覚醒によると思われ、身体的苦痛が影響しており、より快適な睡眠環境を提供する必要があると考える。一方、視力回復への不安が睡眠に影響することが示唆され、特に体位保持期間が長くなる場合には、精神的ケアが必要と考えられた。